

日本図書館文化史研究会
2006 年度第 3 回研究例会案内

2006 年度第 3 回の研究例会を、下記のように開催します。是非ともご参加ください。
なお、研究例会・運営委員会終了後、会場近辺で懇親会の開催を予定しています。あわせてのご参加を期待します。

記

- 日 時 3 月 17 日 (土) 14 時～16 時
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン 8 階 司書・司書教諭課程室
<http://www.meiji.ac.jp/campus/suruga.html>
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、または電子メールでお申込ください。
- 申込締切 3 月 11 日 (必着) でお申し込みします。

【発表 1】

- 発表者
今井 福司 (東京大学大学院教育学研究科 図書館情報学研究室)
- 発表題名
カリキュラム運動に見られる戦後初期の学校図書館
- 発表要旨

日本の戦後新教育で学校図書館が必要とされたという指摘は多くされているが、実際に学校教育の中でどう位置づけられていたかについては、論じられたものはそれほど多くはない。先日、戦後初期に行われた教育運動であるコア・カリキュラム運動から、兵庫師範女子部附属小学校、東京港区桜田小学校の指導案を検討し、コア・カリキュラム運動という教育運動と、教材センターとしての学校図書館がどんなつながりを持っていたのかについて発表を行った。今回の例会においては、千葉県館山市立北条小学校の事例といった他の事例を加えて検討した上で、戦後初期の学校教育が学校図書館にどうつながろうとしていたかについて、さらに考察を加えたいと考えている。

【発表 2】

- 発表者
中西 裕 (昭和女子大学短期大学部)
- 発表題名
早稲田大学図書館員毛利宮彦の経歴と業績をめぐって

- 発表要旨

毛利宮彦 (1887-1867) は大正初めから戦後にかけて図書館界および図書館学の世界で活躍した先駆者であるが、経歴にはよくわからないところがあり、今日では名前も忘れられかけている。アメリカ留学して帰国したあとすぐに勤務先の早稲田大学図書館を辞任し、留学の成果も継承されることがほとんどなかった。その後短い大阪毎日新聞社での勤務実績があるが、独力で図書館学を研究し続けた人物であるといえよう。今回は、残された断片的な資料からその経歴をできる限り復元し、彼の業績とそれがいかに受け継がれているかについても若干の検証してみることにしたい。